

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇樹脂製建具のメタルハイドランプによる促進耐候性試験方法の JIS 制定

■ [随想](#)

◇SDGs を自分ごとにするためには？

第2回 SDGs について知ってみよう！SDGs の本質はどこにあるのだろうか？

上智大学地球環境学研究科教授 織 朱實

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

## ◇樹脂製建具のメタルハイドランプによる促進耐候性試験方法の JIS 制定

VEC が、東京大学大学院工学系研究科・野口研究室、（一社）日本サッシ協会、試験機器メーカー、樹脂窓メーカーの方々と協力し、2018 年より検討してきた樹脂サッシのメタルハイドランプによる促進耐候性試験方法の標準化について、「JIS A 1501」として 2021 年 11 月 22 日に官報公示されました。今回、JIS 化の背景・経緯等について紹介します。

促進耐候性試験機の光源には、これまで疑似太陽光源としてオープンフレームカーボンアークランプやキセノンアークランプなどが用いられ、促進耐候性試験方法の JIS が認定されています。今回検討対象とするメタルハイドランプ光源を用いた試験機は、これらの試験機に比べ有効に作用する紫外部の照射強度が非常に高いため、約 1/10 の時間で評価できます。しかし、メタルハイドランプ方式の促進耐候性試験機メーカーは国内に 3 社あるものの、試験方法は標準化されていませんでした。

樹脂サッシのような長寿命が求められる製品では、往々にして効果の評価にも時間がかかってしまいがちですが、メタルハイドランプ式試験機を用いれば、従来に比べ桁違いに短時間で評価ができるため、製品開発の圧倒的なスピードアップを図ることができます。また、樹脂サッシメーカーはそれぞれ固有の試験データを取り、蓄積してきましたが、本試験法に係る JIS が制定されれば、データの比較や共有化が図られる機会がより一層広がるのが期待されます。



樹脂窓の例

VEC は、メタルハライドランプ式試験機メーカー 3 社の協力を得て、2018 年より始めた実暴露試験で協力関係にあるサッシメーカーや団体と協同し、東京大学野口貴文教授を中心として「樹脂サッシ促進耐候性試験研究会」を設置し、メタルハライドランプ式の試験方法の標準化に向けた検討を行ってきました。この結果を踏まえて、2019 年 12 月より 1 年間、野口教授を委員長とした JIS 原案作成委員会を組織しました。(一社) 日本サッシ協会と VEC が事務局となり、試験機メーカー、樹脂窓メーカー、使用者である住宅メーカーや団体の方々に参加いただきました。

JIS 原案は(一財) 日本規格協会に提出後、(一財) 日本規格協会より産業標準化法 (JIS 法) 第 12 条に基づいて経済産業大臣に申請され、日本産業標準調査会 (JISC) による審議の手続きを経て、2021 年 11 月 22 日に JIS A 1501 として官報公示されました。

本 JIS の試験方法は、樹脂サッシ (塩ビ) だけでなく他の樹脂でも活用が広がると期待しています。今回は、樹脂サッシの市場拡大に向けて、製品開発において課題となっている促進耐候性評価に関する試験方法の標準化の取り組みについて紹介しました。こうした活動について、今後も折にふれご紹介してまいりたいと考えております。

## ■ 随想

### ◇SDGs を自分ごとにするためには？

第 2 回 SDGs について知ってみよう！SDGs の本質はどこにあるのだろうか？  
上智大学地球環境学研究科教授 織 朱實

#### 1. SDGs と企業活動

[第 1 回](#)では、SDGs 制定の背景、MDG の違いについて見ていきました。今や企業活動にとっても、SDGs は欠かせない要素になっています。かつては、社会貢献、人権活動、環境保護活動は企業経営に負担をかけるものであると思われていましたが、2017 年のダボス会議に向けて作成された 2016 年報告書では「SDGs を達成する上で企業が主要な役割を担っている」(SDGs を達成することにより)「2030 年までに民間セクターに少なくとも 12 兆ドルの経済価値がもたらされ」「最大 3 億 8000 万人の雇用が創出される可能性がある」との試算が出されています。こうしたデータをもとに、2017 年 1 月のダボス会議では、ユニリーバ最高経営責任者のポール・ポールマン氏ら世界のトップビジネスマンが SDGs と企業の役割について様々な議論を、行ったのです。今では、SDGs が企業経営にとって重要であることは、誰も否定しなくなっています。では、今まで企業が行ってきた CSR 活動、環境報告書、統合報告書作成に向けての取組と SDGs の取組とはどこが違うのでしょうか？これらの活動をどのように統合していけばいいのでしょうか？



写真：World Economic Forum Annual Meeting

## 2. SDGsの本質

自社の取組と SDGs をつなげるためには、SDGs の本質を表しているいくつかのキーワードや SDGs の特色を理解する必要があります。まず、キーワードですが「世界はつながっている」「誰一人取り残さない」「私が起点」「未来を変化させる」、これらが SDGs を理解するうえでとても重要なキーワードとなります。「世界はつながっている」なかで、どうやって「誰一人取り残さない」世界を、「私が起点」で「未来を変化させる」のか。まず、「世界はつながっている」とはどういうことでしょうか？あまり意識されないのですが、SDGs の 17 の目標はそれぞれつながっています。また、私たちの世界では、世界中の人や企業がつながり、幸せも不幸せも共有される世界となっています。コロナ対策も、一国だけが完全にコロナを克服しても、世界中でコロナ対策が進まなければ、経済活動、社会活動が順調にまわることはできないのです。

例えば、「海洋プラスチック」問題は、SDGs 目標 14「海の豊かさを守ろう」だけの問題ではありません。2016 年だけで、世界では 2 億 4200 万トンのプラスチックごみが排出されています。そして適切に処理されずに海に流れ出たプラスチックごみは、海のごみの 90% を占めています。これらは、海洋生物や自然などの地球環境だけでなく、漁業や観光産業などの経済活動にも影響を及ぼし、さらに有害化学物質が付着することによる人への健康影響も懸念されています。こうしたプラスチック問題の背景には、先進国と途上国の格差や、企業のものづくりや消費者の購買のあり方などが関連してきます。先進国でコストの面から処理しきれなくなったプラスチックごみが、開発途上国に輸出され、児童労働やダイオキシン発生、処分場地滑りなどの問題を発生させ、焼却にまわされるプラスチックごみからは温室効果ガスを発生させ、気候変動の主要な要因の 1 つになっていくのです。2016 年には、世界の温室効果ガスの排出量の 5% が、廃棄物処理から発生しました。このように、海洋プラスチック問題をみても、様々な要因が連鎖して海洋汚染だけではない問題を引き起こし、それぞれの課題の背景には達成すべき SDGs 目標があることがわかります。

それでは、プラスチックを製造・使用している企業としては、どのような対応を行えばいいのでしょうか？ここでは、SDGs のキーワードを考慮した目標 12「作る責任、使う責任」の背景にあるつながっている様々な課題まで、視野にいった取組が必要になってくるのです。SDGs 活動を行うということは、様々な「つながる世界」を意識した行動を企業が考えなければならないということです。これは、一つの問題が発生すれば、その問題に焦点をあてたアドホック的な対策から、より世界のつながりを意識した自社でできる取組などを考慮した、長期的、総合的な視野への変化を企業が求められているということです。こうした視点から、SDGs への取組を考えれば、業務と 17 の目標を紐づけるだけ（業務目標や会議のメモ/資料の上に関連目標のアイコンを貼付するなど）では SDGs 取組としては不十分であることがわかつてと思います。次回では、さらに SDGs の特色から、企業の SDGs 取組のありかたについて見ていきたいと思っています。



資料：筆者

## ■ 編集後記

11月24日(水)、VECのホームページ(<https://www.vec.gr.jp/>)に「動画コンテンツ」と「プラスチック出前授業のご案内」のサイトを新設しました。VECは、塩ビについて正しい理解を広めるため、HP情報の充実、出前授業など啓発活動に努めています。各種資料や出前授業等のお問合せは、次のURL：[info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp) (総務)までご連絡ください。

## ■ 関連リンク

●[メールマガジン登録](#)

●[メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。

---

---



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601    ■FAX 03-3297-5783

■URL <https://www.vec.gr.jp>    ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---